

千葉県・千葉市教員等育成指標～信頼される質の高い教員等の育成を目指して～

教員の資質向上に関する指標

| 六つの柱 | 構成要素 | 養成段階 | 千葉県・千葉市が求める教員像 | ステージⅠ 【成長期】 (学級経営、担当教科指導等) 学級・教科担任等としての 自覚と資質能力の向上 | ステージⅡ 【発展期】 (学年経営、校務分掌主任等の ミドルリーダー) ミドルリーダーとしての 自覚と資質能力の向上 | ステージⅢ 【充実期】 (学校運営等、職員全員へ 指導・助言) チーム学校をリードする 自覚と資質能力の向上 | |
|---------------------|--|---|--|--|--|---|--|
| 教職に必要な素養 | 使命感 責任感 教育的愛情 高い倫理観 コンプライアンス 服務規律の遵守 | 教職の意義 教員の役割 教職への意欲 課せられる義務等 | ○人間性豊かで、 教育愛と使命感に 満ちた教員 | 教員としての職務に対する使命感、責任感、教育的愛情を持ち、教職に対する強い情熱をもっている。また、教育公務員として高い倫理観と不祥事根絶への意識を持ち、服務規律を遵守し、公正に職務を遂行している。 | 豊かな人間性や人権意識を持ち、他の教職員や子供、保護者、地域住民等と、自らの意見も効果的に伝えつつ、円滑なコミュニケーションを取り、良好な人間関係を構築している。 | 教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探求心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続けている。 | |
| 学習実践指導力に関する指導力 | 教科等についての専門性 授業実践 指導技術 | 学習指導要領、幼稚園教育要領 に示された教科領域の目標、ね らい、内容 基礎的な学習指導理論や発達や 学びの過程 指導技術 具体的な授業設計や保育を構想 する方法 | ○高い倫理観を持 ち、心身共に健康 で、明朗、快活な 教員 | 教育に関し、社会的・制度的事項やその意義、歴史等について理解するとともに、最新の動向に関し情報を収集している。 | 各教科等においてそれぞれの特質に応じた見方・考え方を働きながら、資質能力を育むために必要となる各教科等の専門的知識を身に付けている。 | 子供の心身の発達の過程や学習過程に関する理解に基づき、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、学習者中心の授業を創造し、実践している。 | |
| 生徒実践的指導力に関する指導力 | 子供の発達過程や特徴の理解 と信頼関係の構築 生徒指導 教育相談 個別指導 人権教育の推進 生徒指導上の課題への対応 キャリア教育 進路指導 | 子供の心身の発達の過程、特徴 生徒指導の意義及び原理、生徒 指導の進め方 学校における教育相談の意義及 び理論 教育相談を進める際に必要な基 礎的知識 人権教育の理念 理念に基づく、いじめ等の生徒 指導上の課題に対する適切な対 応の在り方 意義及び理論、指導の在り方等 | ○幅広い教養と学 習指導の専門性を 身に付けた教員 | 子供の心身の発達の過程や特徴を理解し、一人一人の状況を踏まえながら、子供との信頼関係を構築するとともに、可能性や活躍の場を引き出す集団作り（学級経営）をしている。 | 教育相談の意義や理論を理解し、子供一人一人の課題の解決に向け、個々の悩みや思いを共感的に受け止め、園・学校生活への適応や人格の成長への支援をしている。 | 人権教育の理念のもと、いじめ、不登校、情報モラル等生徒指導上の課題に対し、他の教職員、保護者、関係機関等との連携を図りながら、子供に対し適切に指導している。 | キャリア教育や進路指導の意義を理解するとともに、県の産業構造等を把握し、地域・社会や産業界と連携しながら、園・学校の教育活動全体を通じて、子供が自分らしい生き方を実現するための力を育成している。 |
| チーム学校を支える資質能力 | 教育課程の管理・運用 校務分掌と連携・調整 家庭や地域、関係機関等との連携・協働 研修（研究）体制 | 各学校で編成される教育課程に ついての意義及び編成の方法 各学校の実情に合わせてカリ キュラム・マネジメントを行うこ との意義 指導以外の校務を含めた 教員の職務の全体像 取組事例を踏まえた家庭・地域 との連携、協働の仕方 学校の諸々役割が拡大する中、 内外の関係機関との連携、分担 して対応することの必要性 研究と修養の必要性 資質能力の向上の必要性 | ○幼児児童生徒の 成長と発達を理解 し、悩みや思いを 受け止め、支援で きる教員 ○組織の一員とし ての責任感と協調 性を持ち、互いに 高め合う教員 | カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、教科等横断的な視点や教育課程の評価、人的・物的な体制の確保・改善等の観点を持って、組織的かつ計画的に教育課程を編成・実施し、常に園・学校の実態に応じた改善をしている。 | 学校組織マネジメントの意義を理解した上で、限られた時間や資源を効率的に用いつつ、学校運営の持続的な改善を支えられるよう、校務に積極的に参画し組織の中で自らの役割を果たしている。 | 家庭や地域、就学前から高等教育までを通じた異校種間及びその他の関係機関との連携・協働に努め、地域とともにある学校づくりに取り組んでいる。 | 研修履歴の記録を基に、自らの学びを振り返り、研修（研究）における成果と課題を把握するとともに、教員としての資質能力の向上を図るために必要な研究と修養に努めている。また、校内研修を教員同士の学び合いの機会として捉え、積極的に参加している。 |
| 特別な配慮や支援が必要とする子供の理解 | 特別な配慮や支援を必要と する子供の理解 | 特別な配慮や支援を必要とする 子供の特性及び発達の理解 | | 特別な配慮や支援を必要とする子供の特性等を理解し、きめ細かく支援するために、子供一人一人の教育的ニーズを把握している。 | | | |
| 学習上・生活上の支援 | | 学習上・生活上の支援 | | 他の教職員、保護者、関係機関等と連携しながら、特別な配慮や支援を必要とする子供の教育課程の編成について適切に対応し、誰一人取り残すことのない個別最適な学びの実現を図っている。また、状況に応じた生活上の支援を工夫している。 | | | |
| ICTや情報・教育データの利活用 | 学習指導に関するICT利 活用 生徒指導に関するICT利 活用 ICTによる校務効率化 | 情報活用能力の育成 ICTを活用した教科の指導法 ICTを活用した子供の支援 情報機器の操作 情報機器の活用に関する理論 及び方法 ICTを活用した校務の推進 | | 学校におけるICT利活用の意義を理解し、学習指導等にICTを効果的に活用するとともに、子供の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための授業を実践している。 | 教育相談、いじめや不登校等の対応、子供の特性に応じた支援等にICT（遠隔・オンライン教育を含む）を効果的に活用している。 | | ICTは学校教育を支える基本的なツールとして必要不可欠なことを理解し、教育データの蓄積・分析・利活用等を通して、校務の効率化を進めている。 |